

最優秀賞（小学校3・4年生の部）

お空にいる ひいおばあちゃんへ
（課題図書：時計がない）【手紙作品】

下妻市立豊加美小学校 3年 倉持 朋広

ひいおばあちゃん、こんにちは。ぼくは朋広です。今日は十三回目の命日ですね。ひいおばあちゃんは、ぼくの姉が生まれた後にすぐなくなったので、ぼくは会ったことがありません。でも、お空で見守ってくれているから、ぼくのことを知っていますよね。

ぼくは、毎朝学校に行くじゅんぴがおそいので、きっとドキドキしているのではないですか。ご飯を食べる時間もなくなってしまうので、時間を知るために時計はひつようです。そう思うでしょう？

ぼくの家には、はり時計とデジタル時計がありますが、姉弟でデジタル時計を使いたいために、姉と時計のうばいあいになることがあります。そんなぼくのところから時計がなくなってしまうたらどうなるか、想ぞうすると心配です。

時計がない生活を考えると、バスで学校に通っている兄は、バスがいつ来るか分からないので、いつもより少し早くバスでいにと到着するように家を出なければなりません。ぼくは、ぎゃくにあわてて食べることもなくなり、のんびり朝ご飯を食べてしまうかもしれません。それより、朝起きられずに、一日が始まらなくなってしまいます。ぼくにとって、時計はきそく正しい生活をさせてくれる大切なものです。

時間は、好きなことをしている時は、短く感じます。たとえば、大好きな算数をべん強していたり友だちと遊んでいたるときはとても短く感じます。しかし、自分の苦手なことやきらいなことになると、集中できずに、手わすらなどして進まなくなり、時間が長く感じられます。そして、時間だけ進んでしまい、時間がなくなってしまいます。

むだに使ってきた時間もたくさんありますが、自分のアルバムの写真を見てみると、アルバムの中にはぎっしりと思い出がつまっていました。その中に、ぼくが小さかった時に兄に本を読んでもらっている写真がありました。ぼくは本を読むことが大好きです。本を読むことが好きになったのは、兄に本を読んでもらうことが楽しかったからだと思います。アルバムには、家族でお出かけをした写真もあり、思い出がたくさんつまっていました。

兄と姉のアルバムには、やさしそうなひいおばあちゃんの写真がありました。ぼくは会ったことはありませんが、ぼくの時間の始まりは、ぼくが生まれるずっと前から始まっていたんですね。そう考えると、今までのぼくは、その時だけの時間しか見ていなかったけれど、時間はずっとつづいていて、目には見えていない時間がたくさんあることに気がつきました。だから、これからは時間を大切にしていこうと思います。そして、思い出をたくさんつくっていきたいと思います。お空にいるひいおばあちゃん。また、おはかに会いに行きます。そして、むだな時間をすごしているぼくを見たら注意してください。いつまでもお空から見守ってください。